



日本体育協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会報

第 66 号

平成25年3月15日

発行人
茨城県スポーツ指導者協議会
会長 照 沼 一 美
事務局 〒306-0204
古河市下大野1463-4
事務局長 鈴 木 義 夫
会員数 1,052名 (H24. 10. 1 現在)



平成 24 年度茨城県スポーツ指導者研修会 (県北研修) (平成 25 年 1 月 27 日(日))

日本体育協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ.....	2
平成 24 年度本協議会活動報告	3
平成 24 年度全国公認スポーツ指導者研修会報告	
受賞者あいさつ.....	4～6
支部だより.....	7～9
みんなの広場.....	10～12

いあいおし



茨城県スポーツ
指導者協議会会長

照沼 一美

茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。平成二十五年度を迎えるに当たり、この新しき年が我々スポーツ指導者として、より良い年になりますよう、願いを込め茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。

平成二十四年度事業も予定通り滞りなくすべての事業が終了いたしました。これひとえに役員の皆様の献身的なご努力と会員の皆様のご協力によるものと感謝の意を表し御礼を申し上げます。

全県研修会においては水戸支部を中心に盛大に実施いたしました。支部単位の義務研修会は県南支部、県北支部、県央支部がそれぞれに実施いたしました。それぞれに支部の特徴を出し、役員の皆様のお力が前面に出されて、参加者のニーズに 대응することが出来たことと確信しております。

平成二十四年度の養成講習会はバレーボール、軟式テニス、山岳が行われ、それぞれに新しい仲間、

約五十余名の方が誕生いたしました。新たな力を有意義に成長させてほしいものです。一人でも多くの方が本協議会へ入会が望まれます。どうぞ、入会をお待ちしております。

顧みますと、去る平成二十三年三月十一日の東日本大震災により関東以北が壊滅的な打撃を受け、今なお復興という大きな目標を掲げながら復旧さえもままにならない現状です。それぞれの皆様のご自宅の被害復旧もいかがでしょうか。特にご自宅の被害を受けられた方々には重ねてお見舞いを申し上げます。一日も早く復旧されませうお祈り申し上げますが、疵痕は瘡蓋となり、復旧という文字を諦めという文字に変えようと思う心境になって居る昨今であります。

例年の恒例行事になりました、公益法人日本体育協会公認スポーツ指導者の表彰式典が、去る平成二十四年十二月十五日・東京都港区高輪のTKPガーデンシティ品川ホールルームにおいて、公認指導者の全国研修会に先立ち開催されました。本県からの受賞者は以下の通りです。

▽県スポーツ指導者協議会推薦者 保坂信子様（バドミントン）・大

越勲様（ソフトテニス）・島田良子様（ソフトボール、エアロビックス）以上三名

▽各競技団体推薦者

尾又篤様（ラグビーフットボール）・大森對子様（卓球）・三浦正行様（水泳）・白鳥精一様（バドミントン）以上四名、計七名の皆様が受賞されました。誠にめでたうございます。今後更なるご健勝とご活躍をされますようご期待申し上げます。

表彰式の前日、十二月十四日午後、平成二十四年度全国スポーツ指導者連絡会議が東京都渋谷区代々木、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、各都道府県の代表者四十七名と各競技団体代表者等を含め約一四〇名により全体会議が開催されました。平成二十三年度より各ブロック会議が実施開催されなくなったことから、各ブロックの今後の対応策や、各都道府県のスポーツ指導者協議会の活動状況や取り組むべき活動等、競技団体毎の活動状況が、先に実施されたアンケートが集約されたものが報告されました。

その後分散会として、各ブロックごとに分かれ、関東ブロックと致しましては、「関東ブロックスポーツ指導者協議会」を組織化し、定期的な連絡会議や情報交換の機会を事業化していくことになりました。

した。

公益法人化された日本体育協会のもと、各都道府県の体育協会、更に市町村の体育協会の役割が変革する昨今、我々スポーツ指導員の役割や活動方法が徐々に変革を求められようとしております。

平成二十五年度が有資格者それぞれの皆様にとって、上り坂となり、ご活躍されますよう、ご祈念申し上げます。終わりにご愛読いただいております、茨城県スポーツ指導者協議会会員各位の益々のご活躍を、更に茨城県スポーツ指導者協議会への格別なる、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。



平成二十四年度 本協議会活動報告



茨城県スポーツ
指導者協議会事務局長
鈴木 義夫

平成二十四年度の茨城県スポーツ指導者協議会の活動内容をご報告申し上げます。

今年度の総会は、平成二十四年五月二十七日(日)に水戸市・内原中央公民館で開催して、平成二十三年度事業報告及び収支決算報告並びに平成二十四年度事業計画(案)及び収支予算(案)を全会一致でご承認が得られました。

茨城県スポーツ指導者協議会の主催事業は、全県研修会「旧・中央研修会」を、水戸支部及び研修委員会主管で、平成二十四年九月二十三日(日)に水戸市・茨城県立青少年会館で開催して、一五四名「会員九十二名・非会員六十二名」の参加受講者がありました。更に地区研修会は、県南支部主管で、平成二十四年十一月二十五日(日)に阿見町・本郷ふれあいセンターで開催して、九十七名「会員七十一名・非会員二十六名」の参加受講者がありました。

また県北支部主管で、平成二十五年一月二十七日(日)に日立市・女性センターで開催して、九十一名「会員七十二名・非会員十九名」の参加受講者がありました。

平成二十四年度関東ブロック会議は中止になりましたが、平成二十四年全国研修会が、公益財団法人日本体育協会主催で、平成二十四年十二月十五日(土)に東京都・TKPガーデンシティ品川で開催されて、茨城県スポーツ指導者協議会から会長以下四名役員と一般会員一名が参加いたしました。

更に平成二十四年度公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰事業表彰者に、公益財団法人茨城県体育協会を通じて茨城県スポーツ指導者協議会から推薦された三名「島田良子様・県西支部」、「保坂信子様・県北支部」、「大越勲様・県北支部」が受賞いたしました。

茨城県に所属する公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者で、有資格者は平成二十五年二月一日現在で三千四百九十名であります。

茨城県スポーツ指導者協議会六支部別に有資格者人数と会員人数は、「県北支部・有資格者二七六名・会員一五一一名」、「水戸支部・有資

格者四八八名・会員一一九名」、「中央支部・有資格者七四九名・会員二四八名」、「鹿行支部・有資格者二五五名・会員八十名」、「県南支部・有資格者一、一七二名・会員三二〇名」、「県西支部・有資格者四五〇名・会員一四〇名」で、昨年三月より会員人数が五十五名の増加になりました。

平成十七年十月から有資格者を取得後に於いて、義務研修会を四年間に一回以上の参加実績のない公認スポーツ指導者に資格更新の手続き案内文書が、公益財団法人日本体育協会から書類の送付が届かなくなりました。

茨城県スポーツ指導者協議会は、会員加入または会員更新された方々に、有資格者の有効期限および更新可否「未受講・判定中・更新可・資格喪失」の内容を研修会の案内文書に記入して、研修会に参加受講者の実績を公益財団法人茨城県体育協会を通じて、公益財団法人日本体育協会に提出して、資格更新の手続きが円滑になるようご支援いたしますので、茨城県スポーツ指導者協議会に格別なる会員皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



県南地区研修会風景

平成
24年度

全国公認スポーツ 指導者研修会報告



受賞者あいさつ



古河市

島田 良子

この度、平成二十四年度、公認スポーツ指導者全国研修会公認ス

ポーツ指導者の表彰をいただきま
した。

茨城県スポーツ指導者協議会県
西支部・公益財団法人古河市体育
協会・茨城県体育協会、皆さまの
推薦を頂き受賞にいたったもの
と、心より感謝とともにお礼申し
上げます。

研修会では、オリンピックとス
ポーツ指導者をメインテーマと
し、オリンピックの持つチカラ・
オリンピックへとつながる競技者
の発掘の育成方策、そしてチー
ム一丸となり快挙を達成することの
素晴らしさなど、オリンピックを題
に、様々な切り口の研修内容でし
た。

二〇二〇年開催のオリンピッ
ク・パラリンピック競技大会の
招致運動を展開しております。
二〇一三年九月には開催都市が決
定されますが、日本開催に向けて、
理解と支援のお願いいたします。

私は数多い活動の中心に、「花
桃ウォーク」があります。会場は、
古河総合公園を基点として、長短
六コースを設定し、市内及び渡良
瀬遊水池周辺で、二日間です。毎

年全国から二八〇〇人位の参加が
あります。北は北海道、南は沖
縄県までいて、最高年齢、男性
八十五歳、女性八十二歳の人から
の参加があります。

大会の運営はスポーツ指導員が
あたり、受付、準備体操、コース
指示、チェックポイントの係を設
けて、参加した喜びを味わって
ただけますよう、準備万端努力す
ることになっております。

「体力づくり」「茨城県小・中学
校体力づくり推進事業」地域指導
者として委嘱され、児童、生徒の
指導にあたりました。

小学校では、第一回目は、全校
児童が「ふれあいの時間」に六年
生をリーダーとして、ストレッチ、
リズム運動、ゲーム、ボール運動、
フォークダンス等を中心を実施。
二回目から、三年生以上を対象に
学年別に行ない、四回実施しまし
たが、熱心な参加態度に感動させ
られました。

中学校では、エアロビックで体
を動かす楽しさを味わい、体力、
筋力、持久力、集団演技などの向
上を図ることをねらいました。は
じめの試みでうまく乗ってくれ
るか心配でした。しかし会場に音
楽が流れるや、一斉に身体を動か
し、リズムに乗り、すばらしく盛
りあがり、楽しい会場になりました
。参加者から「大変よかった」
の声。先生方から「よい指導をい



ただいた。」の感謝のことばに、
指導者として、かけがえのない機
会を作っていたいただいたように思
い、私はスポーツを愛する者とし
て、今後も指導活動に何ごとも全
力を取り組み、幅広い人々、一人
でも多くの方が運動の喜びを分か
ちあい感動と共有し、生涯スポー
ツ社会の実現、健康を増進し、そ
こに生きがいを見い出せるよう働
きかける努力をしたい。
これを目標に、今後も指導活動
に微力を尽くしたいと念願してい
ます。ありがとうございます。



日立市
保坂 信子

この度、平成二十四年度公益財団法人日本体育協会の公認スポーツ指導者表彰をいただき、誠にありがとうございます。

ご尽力をいただきました各関係機関の皆様深く御礼申し上げます。

資格を取得して三十余年たちますが、指導することのむずかしさを痛感しております。社会人やレディースの方が主な対象ですが、年令・体力・技術のレベル差などメニューを考え、練習を積み重ねても、実際のゲームに対応出来るようになるのは、なかなか容易なものではありません。

先般の全国指導者研修会では、世界で活躍しているテニスの錦織圭選手を六歳から渡米する十三歳までプライベートコーチとして育てた公認テニス上級コーチ、公認テニス上級教師の柏井正樹さんが『草の根』から「ナショナル」それぞれ別のコーチ、指導者』との演題で講演を行いました。

柏井さんは大学に入ってから初めてテニスをやったそうです。

サークルの位置にあったクラブを体育会へと昇格させ、卒業年度には大会のシード選手と互角に対

戦するほどの選手となりました。初心者からスタートしたご自身が培ってきた経験を基に、後輩に練習法を実践され良い成績を残されたことから職業としてコーチの道に入られたそうです。

話を伺いながら、大人になってから始めて数多くの選手を育てている事に大変感銘をうけました。

私は三十五歳を過ぎてからバドミントンを始めました。興味本位で左手に幼児を抱えながらラケットを振って楽しんでいる程度のものでした。コーチから試合に出るよう勧められ参加しましたが!!競技も知らずに出るとは恐ろしいもので、これが本当のバドミントン??そんな経験をし、どうせやるならと指導員の資格をとりました。講習会等に参加したり、先輩の方に教わりながらクラブの指導をするようになりました。

柏井さんは「選手から少し引いて見ると次が見える」ゲームのセンス、負けず嫌い、自分の意見が言えるか」等各人の性格をよく見極め、夢と目標を定めメニュー等を取捨選択しながら指導すること、そして選手が次のステップに進むため、自分以外のコーチの教えを受ける道筋をつくってやる事が大事。それが指導者にとって大切なことと話されました。

私の対象となる指導のレベルは違います、大勢の方にバドミ

ントンを楽しんでいただき、それが「親から子、子から孫」と伝えられて競技をする人口が増えて、その中から上を目指す選手が出て来、他の指導者に橋渡しが出来ればいいなあと思っています。日常生活の中でからだを動かすことが減ってきている時代に、好きなスポーツを通して親子の絆が強まり、子供達の人間形成に携わる事が出来ることをうれしく思います。

最近ではスポーツ指導者のあり方が問われていますが、暮らして生活に欠かせないスポーツとして子供から高齢者までの「生涯スポーツの普及」を進めると同時に、私も研鑽をつみ、技術だけではなく人の心に寄りそっていただける指導者として努力して行きたいと思えます。

今後共、皆様のご教導の程、よろしくお願い申し上げます。



日立市
大越 勲

平成二十四年十二月十五日、TKPガーデンシティ品川一階ボールルームにおいて、「平成二十四年度公認スポーツ指導者全国研修会」が開催されました。表彰基準第一号に該当する指導者の一人に推薦され、全国から来られた一八二名の方々と研修会の席上栄誉ある受賞に浴しました。推薦頂いた「スポーツ指導者協議会東北支部」はじめ関係協会各位に深く感謝申し上げます。

省みますと中学三年でラケットを握り、鉾山に入社し、先輩の方々に指導を受け、企業が健康増進・適正管理のもと、各種スポーツを奨励し、年間行事として職場対抗戦を実施してまいりました。これが基礎となり、多くの先輩・友人も各種大会に参加し活躍してまいりました。高度成長期の昭和三十三年に神奈川県に転勤。事業所の賛同を得てソフトテニス部を創設、当地協会・近隣の工場・地域のママさん等の主催する大会に協力し、スポーツの楽しさを共に学び地域発展に寄与してまいりました。昭和六十三年転勤で帰省。平成六年から生活の時間帯が大きく変わり、地域と交流の無かった私は、先輩

や学区内の方々に誘われるまゝ、交流センターへ通い卓球を始めたことから「百年塾講座」の在ることを知りました。その中にソフトテニスのグループが記載されていたことが、思わぬ方向へと、導かれていくことになりました。高令者歓迎のママさんグループのソフトテニス大会に参加したことで、主催した協会役員の方から、発足したばかりの「スポーツ少年団」コーチの依頼を受け、承諾しました。

平成七年市体協より「スポーツ少年団認定員」の資格取得を紹介され八月に取得、翌年公認スポーツ指導者講習会を六ヶ月間受講し試験を経て「ソフトテニスC級スポーツ認定員」認定書を取得しました。子供達と接することで心身ともに癒され楽しい指導日の連続でした。平成十三年、知人より推挙され県北支部役員として、会計・広報部委員として、各地域で開催されるスポーツ行事を支援してきました。毎年開催される研修会や講演会に参加し、その内容から即活用できる種目は活用し、有効な項目は、知識として貯え、機会ある毎活用させて頂いております。

七十八才を過ぎた現在、単体スポーツにこだわらず、周囲の人達と、いつでも、どこでも、だれとでも出来るスポーツや遊びから学び楽しんで健康を維持して行くこ

とに努め、共鳴する人達とグループを立ち上げ、健康年令の先延ばしに励んでいるところです。

この度の受賞は、今まで私を育ててくれた多くの方達のご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝し、今後の活動に生かしていく所存です。



東海村

大森 對子

このたびは身に余る表彰をいただきありがとうございます。

平成二十四年十二月十五日に東京での表彰式に行ってきました。表彰式が終り全国研修会になり、特別講演は荒木田裕子さん元バレーでオリンピック金メダリスト、現在日本オリンピック委員会理事の二〇二〇年東京にオリンピックを開催したいと情熱的な話、そして私達にも協力をもとめました。次に講演で柏井正樹さん、グリーンテニススクールの錦織圭選手を育てた柏井さんの話に錦織選手を幼少時から育ててすばらしいプレイヤーにした柏井さんの話で、小学校からテニスを始めたのは初は特に目立たなく良かったのは良きライバルがいつもいたこと、そして錦織選手が一人でも練習を沢山して頑張ったこと、自分は特

別なことをしたわけではなく、ただ見守っていたと言われたが選手への発育、発達にあわせた指導法が感じられとても感銘しました。次はシンポジウムで二〇一二年ロンドンオリンピックでアーチェリーの監督新海輝夫さんと団体銅メダリスト蟹江美貴選手が出演して蟹江選手は中学から兄弟がアーチェリーをやっていたのでなんとなくやってみる気になってから好きになった。高校で推薦にはなれず、普通に受験して新海さんという指導者と出会い、アーチェリーが好きになり頑張った結果オリンピックという舞台で銅がとれた。ここまでこれたのは監督はじめ多くの方々の協力とアーチェリーが好きだからここまでこれたのだと思います。今少しお休みして今後のことは考えます。といったさわやかな笑顔がステキでした。

この後は情報交換の時間で場所を移動して、バイキングの美味しい料理を飲食しながら、全国中から集まった指導者の情報交換となりました。競技はなにかから始まり活動内容、出身地などや悩みやいろいろ話が出て、楽しい時間の九十分があつというまに過ぎてしまいました。

表彰もいただきこれからの活動に生かせる講演を聞き有意義な一日をすごさせていただきました。今後指導者として対象者が卓球を

好きになり心と身体を鍛え生涯スポーツとして続けられるよう尽力をつくしていきたい。それには私自身も成長続け新しい情報を学び、看護師である知識も活用しながら、安全で正しく、楽しい指導者をめざして一歩ずつ前進していきたいと思っております。



支部だより

県北支部

支部長

野内康二

先日、懸案であった「茨城県スポーツ指導者研修会」（県北地区研修）を、日立市「ラポール日立」に於いて開催し、県体協の指導の下、主管を務め無事終了致しました。これも偏に、それぞれの持ち場で頑張ってくれた、運営委員の皆様、そして、ご協力下された関係各位の、ご助力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

この研修に際し、参加申し込みの状況がいつもと違うことに、違和感を持ち、アンケートを実施いたしました。その結果、あまりにも明確な回答に、これで迷いなく次の研修に取り組むことができると感じました。ここに、これを皆様に伝え、参考にして頂ければ幸いと存じ、御報告致します。

アンケート前半の設問は次の四つです。「どの案内を見て参加を決めましたか」「開催時間帯は」「開催場所は」「交通手段は」の四問です。結果は、開催時間帯は「九時半～午後三時」を九割の人が支持し、開催場所では、八割の方々が「ラポール日立」を支持されま

した。交通手段でも、「自家用車」が十割弱で、電車、バスの利用者が三人しかいないというのには、時代を感じましたが、幸いにも「ラポール日立」が支持されたことで、この方達の交通手段に、なんの問題もなく安堵いたしました。

また、「ラポール日立」が研修会場として支持されたのは、長年研修会場として使い続けてきた、知名度の高さが功を奏したのではないかと考察しております。

「どの案内を見て参加を決めましたか」では、複数回答があるもので必ずしも正確とは言えません



が、仮に、複数回答総数（八八）をアンケート提出者数に置き換えれば、次のようになります。全県同時案内が五二名と最も多く、その内訳は、他支部（スポーツジャパン・全県同時案内しか情報がないグループ）からの参加者が二八名、県北支部から二四名が加わり小計五二名。スポーツジャパンを見てその他の方法で参加を決めた人が九名で合計六一名。アンケート提出者を八八名と数えるので、残りは二七名。この方々の参加が、支部会員宛に追加案内を出した効果といえます。

県北支部では、過去七回、研修主管を務めたデータから、追加案内の重要性を認め、この二七名（三二％）の効果にこだわり、会員皆様のお役に立ちたいと願っております。

アンケート後半は、「講演Ⅰ」「講演Ⅱ」の感想と、県北支部へのご意見ですが、講演については東京有明医療大学の「笹木」「福田」両先生とも大変すばらしい講演内容でしたので、参加者の皆様に大変喜んで頂けました。お陰様で、県北支部活動も、そのままでの評価を頂きました。大変嬉しく思います。これに気を緩めることなく、鋭意努力してまいります。今後ともご協力よろしくお願いたします。

あとは「常陸太田市歩け歩け大会」の助勢を行なえば、今年度の事業計画は完遂です。

中央支部

事務局

野々村律子

平成二十五年、茨城県スポーツ指導者協議会中央支部の展望は、例年の如く、四月第一週土曜日（四月六日）午前中の平成二十五年支部総会開催を目指して、関係役員一丸となって準備を始めている所であります。

今年度からは、従来継続して来た救急救命講習会については、行政指針の変革に伴い、講習会のあり方が大変かわりますが、私達は指導者として、この懸案については、今まで受講した人達も、くり返しの鍛錬により、有事の時は意義ある行動が出来るようにし、又、まだそれに関わっていない仲間を誘うと共に、自分の回りの人達にも声を掛けて、この輪を広げて行く事が大事ではないかと、つくづく思うこの頃であります。そのように活動する事が、自分の為でもあり、地域の福祉への大きな輪づくりに膨らむのではないのでしょうか。

研修会については、中央全県研修会を基準にして、中央支部研修会を考へて行きたいと思っております。

自分の公認資格の継続、そしてこれから若い人達が資格を持ち、良い指導者としての活動が出来るように、ルールを引いて先達を勤める事が可能なら嬉しいと思います。

尚、3・11の大災害を忘れる事なく自分達指導者もネットワーク造りに意識を持って関われる様にしたいものです。

回りに目を向け、出来る事を出来る範囲でと感じながら、報告と致します。

水戸支部

支部長

吉田 広光

水戸支部の二十四年度の活動は、早々に四月十四日ケーズデンキスタジアムにて、会報六十五号に研修内容を報告させて頂いておりますが、大勢の会員の皆様の参加が有り当初の研修の目的が果たすことができ、大変有意義に終了できましたこと改めてお礼申し上げます。

又本年度は引続き全県の研修会が、水戸支部が主管と言うことで運営に協力の申し出があり、活動の準備を致しました。五月十二日水戸内原中央公民館「県理事会」午後「研修部」の打合せ、五月二十七日「県総会」、又六月八日県体育協会大畑様、吉田と日程内

容の確認の打合せなど。又災害の影響で会場がとれず水戸支部総会が遅れてしまい七月二十二日・上中妻市民センターにて二十三年度の事業報告及び二十四年度の事業計画、会員二十名の参加を頂き無事終了する事ができました。

又平成二十四年度九月二十三日茨城県スポーツ指導者協議会全県研修会が水戸青少年会館にて開催することができ、外はあいにくの雨模様でしたが雨が幸いしてか参加された会員の皆様の車の駐車が全車歴史館内に駐車されたこと役員又係員とほっとした事でしよう。参加者会員九三名、非会員

六十二名、合計一五四名様の参加あり、内水戸支部からは四七名の方が研修に参加されておりまして。午後一時三十分筑波大学の福田様「講演(一)」子どもの体力向上について、講演(二) 横浜国立大学の海老原修様に「学校部活動と公認スポーツ指導者の関わり」

両先生方の実のある講演内容に触れ、初めに茨城県体育協会市村専務理事様の開催の挨拶で始まり、総合同会に県指導者協議会青柳様に、研修の流れを説明され予定通り五時に全県研修会の目的が達成され終了されました。参加者の皆様に感謝を申し上げたいと思いま

す。さて停滞している時間はあまり

せん。二十五年水戸支部事業計画を役員の皆様と打合せをしなければなりません。すでに昨年十二月一日の全県研修会の反省、二十五年の事業計画など目標達成のため役員会を開催しております。五月末日に水戸支部「研修会」同日に「総会」も予定しておりますので決定次第皆様に連絡を申し上げます。会の時はいと思っております。会の時には是非御意見要望などありましたら互いに切磋琢磨、励まし合いましよう。

昨年京都大学の山中伸弥教授がIPS細胞の開発でノーベル医学生理学賞の受賞しました。山中教授の講演の中で「失敗すれば」失敗するほど幸運は来る。失敗することは恥ずかしいことではないと語っております。指導者の私達にも何か学び教えられ共通点がある様に思われた。

県西支部

事務局長

近藤 康雄

平成二十四年度の活動も終わりに近づいています。平成二十四年九月二十三日に水戸で全県研修会が開催され一七〇名の参加を頂きその中で県西支部からは二四名の出席を頂き終了いたしました。

今年度、県西支部会員(平成二十四年十月一日現在)一四〇名

と前年度より数名へりましたが今年度も県西支部独自の活動を実施できなく申し訳なく思っております。幾度となく会報を通し活動についての提案をしまいいりました。この問題が解決していません。このような中で平成二十五年度の地区研修会が平成二十五年十二月一日(日)又は十二月八日(日)を予定しております。一昨年八〇名の参加の中支部運営委員のご協力を頂き無事終了しました。今年度も運営委員をお願いし決まり次第委員会を開催したいと思います。

今年度の県西支部総会を四月に予定しております。日程が決まり次第早急に連絡いたしますので多くの会員の方々の参加を希望します。総会の席上、今後の活動についての協議を行ないたいと思っておりますので宜しくお願いたします。この会報をご覧になり、ご意見、ご要望がありましたら

〒306-0052

古河市大山1543-13
県西支部事務局 近藤康雄

◆電話・FAX

0280-48-11911
まで連絡をお願いいたします。

県南支部

支部長

櫻井孝之

今年度事業として十一月二十五日地区研修会を、阿見町本郷ふれあいセンターで開催、九十七名の参加があり無事終了いたしました。研修会の運営委員を、協議会会員から公募し十三名の会員の皆様の御協力を頂きました。ご協力誠に有難うございました。運営面で多少の不備もありましたが、日頃交流のなかった会員の方々と、研修会の運営を通じて協働出来ました事は、意義深い研修会であったと皆様に感謝いたします。

二十五年度の支部活動に、今回の研修会の実績を生かし、支部組織の充実を図るきっかけにしたいと考えております。

県南研修会では、二十二年度と今年度と、コミュニケーションスキルとスポーツを取り上げました。言葉で伝える事は簡単な様で難しい。受け手側と指導側とのギャップも有りますが、根気よく会話し、互いの信頼が出来てこそその指導であり、プレイヤーズファーストの思いが無ければ成立しません。言い換えれば指導者の心構えが問われている時代でもあります。今回もアンケートを致しましたが、そこから見えてくるも

のを踏まえ、会報のみんなの広場に掲載して頂きたいと思えます。まだまだ県南支部も課題が多く、会員の皆様のお力を借りなければなりません。二十五年度に向け尚一層のご協力と、ご指導の程お願い致します。



鹿行支部

副支部長

君和田 毅

鹿行支部は、鹿島地区（鉾田市・鹿嶋市・神栖市）と行方地区（行方市・潮来市）の五市からなっており、二〇一一年八月現在の公認スポーツ指導者数は、一九五人で、そのうち茨城県スポーツ指導者協議会の会員は七一名です。パーセントで言えば、約三十六%です。約三分の二の指導者が協議会に入っていないです。

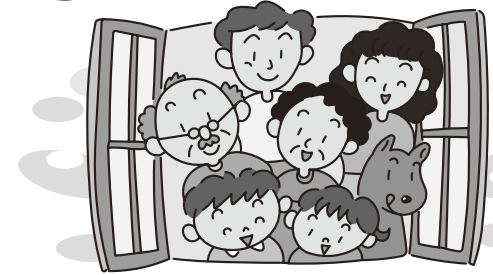
なぜ、会員にならないのかと非会員の方に聞いたことがあります。その人が言うには、会員になるメリットが感じられないとのことでした。日本体育協会の公認スポーツ指導者として、四年に一度の登録料を払い更新しているのだから、有資格者は全員会員であるべきだろうと言われました。県の理事会でもこの件については、何度か協議をしましたが、まだ結論には至っていません。協議会は、公認スポーツ指導者の資質の向上と活動促進、相互の情報交換を図る役割を担い、連帯感を深め組織的活用が図れるよう支援すべきと考えます。

鹿行支部では、それを実現するよう支部役員に各市から行政担当者に入ってもらったとき、行政との連携を密にするとともに、毎年行な

われている、鹿行地区スポーツ推進委員協議会と合同で研修会開催して、情報交換と資質の向上に努めています。今年度も三月十日（日）に「子どもから高齢者までのスポーツ振興」と「ラジオ体操・みんなの体操」の講演と実技の研修会を開催します。



みんなの広場



我、桜川市の活動



桜川市
金子 元則

私の専門種目はスキーです。桜川市真壁町に真壁スキークラブを創立して早四十年余りの時間が流れ、参加された皆様は三世代に及びます。クラブの活動理念は、指導者の育成、スキー人口の底辺の拡大、明るく楽しい町づくりに奉仕する、この理念は今も変わりなく活動をしています。

茨城県スキー連盟に加盟して、

二十年余りの中で、SAJ公認の正指、準指導員十一名を擁するまでに成り、県連のスキー活動にも参加、スタッフを派遣し、県連発展のために微力ながら尽力しています。

桜川市でも五年前に総合型地域スポーツクラブの設立の機運が持ち上がり、私も老後の健康管理の一助にと考慮して設立準備委員会に参加しました。併せて総合型クラブ設立のための講習会、研修会を受講して、二〇〇九年にスポーツ指導者の資格を取得しました。

二〇一〇年一〇月に「総合型地域スポーツクラブ」として設立された「桜川スマイルクラブ」は、「いつでも、誰でも、楽しく」をモットーに現在一七〇名の会員と、(硬式テニス・リフトテニス・バドミントン・スポーツ吹き矢・アイアンゴルフ・太極拳・バランスボールと健康体操・健康体操とリンパマッサージ・ビームライフル・水泳・水中ウォーキング)の各教室を開催し、会員の皆様が年間を通して活動し、心から楽しんでおり元氣いっぱい笑顔がはじけて、創立三年目を迎えてクラブは上昇ムードで嬉しい限りです。その他に年間三回程イベントとして、(ハイキング・歴史探訪・りんご狩・みかん狩)等を開催して会員皆様同志のコミュニケーションを取っ

て、和を深めて楽しんでいきます。

会員の構成は経験豊富なお母さん達、お父さん達、そして小学生達です。本格的なスポーツに縁は無くても、参加されてるひとりひとりが健康管理を自覚し、地域のコミュニケーションが深まれば、明るく楽しい桜川市づくりになるかと確信しています。

私は小学三年生になる孫と、パランスボールと健康体操をはじめ多くの種目に参加しています。

平成三十一年に茨城国体が開催される予定です。スマイルクラブ出身のビームライフル国体選手誕生を目指して教室を開催しています。小学生、中学生の若い人に夢を託しています。又、家の孫も夢のまた夢かもしれませんが、孫の努力しただけでは夢が実現するかもしれない。目標を持って継続する事を応援するだけです。又、パランスボールは先生のパートナーとして自信を持って教室を楽しんでいる姿を見るにつけ教室の皆様には心から感謝です。皆様のヨイシヨに孫は自信を得て、人の優しさと思いやりに触れて素直に成長して欲しいと願っています。

私は後期高齢者であります。この世代では水泳教室は有りませんでした。水泳は命をかけて覚えたものです。当時は町内の餓鬼大将に連れられて、近くの川や池で泳

ぎは覚えさせられたものです。深い川や池に投げ込まれ、水を飲みながら必死にもがいて水面に顔を出し、散々水を飲んで溺れる寸前に助け上げられ、何度もくり返し、泳ぎを覚えたものです。昔の子供達は年少者に対し遊びを教え、助けるルールが有ったように思います。これが「命をかけて覚えた泳ぎ」の由縁です。今の水泳教室の先生方のご指導の合理的なこと。基本からやり直しているけど、身体が言うことをきかない。昔、体で覚えた泳ぎは離れ難しというところですが頑張って努力している昨今です。

桜川スマイルクラブでの活動は、孫との絆を強め、自分の人生を豊かにし、新しい出会いを大切に、人生の終幕を飾るイベントと想い楽しんでる毎日です。



「見て面白いスポーツを創造しよう」

鹿行支部 君和田治也

二〇二〇年のオリンピック東京開催招致がようやく盛り上がりを見せてきたと感じるこの頃です。スポーツに育てられた我々としては是非共、二回目のオリンピックを直に日本で見たいものです。開催地が決定される今年の九月七日のIOC総会まで、みんなで盛り上げたいと思っています。

私はお陰様でラグビーを楽しませてもらっておりません。そこで、ラグビーのPRをさせてもらいたいと思いい筆書かせて頂きます。次回二〇一六年ブラジル・リオデジャネイロのオリンピックから男女7人制ラグビーが新しい種目として行なわれる事になっています。

日本でも国体種目として一五人制から七人制へと平成二十五年東京大会から変わります。

七人制ラグビーはテンポが速く見ている人を飽きさせません。試合時間は七分ハーフと短いですがグラウンドの広さやルールはほぼ同じにプレーをするので、選手は非常にタフでないと試合に勝つこと

は出来ません。

スピード感、一瞬の駆け引き等トップレベルの試合を見るとたまに面白くないスポーツとなってしまう。

今年三月末にはセブンズのワールドカップ大会が昨年に引き続き東京秩父宮にて二日間開催されます。外国の方々の楽しい応援パフォーマンスなど非常に楽しいスポーツ観戦が出来ます。是非、トップレベルの生のプレーを見て頂ければ嬉しいところです。

尚、二〇一九年にはラグビーワールドカップ日本開催も決まっております、皆さんの応援をお願いしたいと思っています。

どのスポーツも見る人が心に残るものを出さないとなかなか発展普及しないものと思っています。スポーツを行って人だけが満足しては駄目です。見ている方々がどうしたら満足するか？いろいろな面から考え、企画して行く事もこれからのスポーツ指導者の役割となつてくると思っています。



県南研修会

アンケート報告

県南支部 櫻井 孝之

二十四年度県南地区研修会でのアンケートに寄せられた意見・感想・要望等を報告いたします。

講演Ⅰは萩原武久先生による「コミュニケーションスキルとスポーツ」先生の熱のこもったお話で、その定義を解り易くパワーポイントで表示しながら実践例も踏まえ大変勉強になったと高評価を頂きました。相手「指導される側」の気持ちになって、指導者がどんな事を伝えればいいのか、発信力が問われる時代でもあります。スポーツを教えるのではなく、スポーツで何を教えるのか、心の交流が構築出来た上での指導が大切、自分自身の人間力を高める事が大切である。今までの指導等について考えさせられる内容で良かった等の感想でした。PDF資料が欲しかった。

今指導者に問われている課題に対し大きなヒントが沢山あり、められていた講演でした。

講演Ⅱは軍司清二先生の「筋肉のコンディショニング」独特の力強いテンポのある語り口で、パ

フォーマンス溢れる講演で、次々に参加者を実験台に実践を通じて、スポーツをする前に身体を作る事、柔軟性が大切な事教えて頂きました。

今後の要望として、個の能力に応じた指導法で具体的な講習を、もっと指導者に身近な指導者協議会に、指導者の種目や資格を問わず横の繋がりを、支部独自の研修会の開催を、いろんなスポーツが自由にできる環境づくりを等参加者の熱い要望が寄せられておりました。講演テーマに関しては、

- ① トレーニングの科学
 - ② スポーツ指導における安全管理
 - ③ スポーツと栄養
 - ④ 子供の体力向上
- の順で要望がありました。

講演Ⅱでは
① 指導者に必要なコミュニケーションスキル
② 実技研修
の順でした。

研修会に期待する要望は多く有り皆様の熱心な期待を感じる事が出来心強く思いました。自由協議会のテーマ別分科会やパネルディスカッション方式や課題に対し一言提案メモに因るシミュレーション法とか、参加者が発言できる機会を多く出来る方策も取れたらと思われた研修会でした。



県北地区研修会風景

平成24年度 茨城県スポーツ指導者研修会報告

○全県研修会（水戸市）

日 時 平成 24 年 9 月 23 日(日)
会 場 茨城県立青少年会館
参加申込者 173 名

○県南地区研修会（稲敷郡阿見町）

日 時 平成 24 年 11 月 25 日(日)
会 場 阿見町「本郷ふれあいセンター」
参加申込者 118 名

○県北地区研修会（日立市）

日 時 平成 25 年 1 月 27 日(日)
会 場 日立市女性センター
「らぼーるひたち」
参加申込者 103 名

平成25年度 茨城県指導者研修会開催計画

1 全県研修会（水戸市）

- (1)主管支部 中央支部
- (2)開催会場 茨城県立青少年会館
- (3)開催期日 平成 25 年 8 月 4 日(日)予定
- (4)申込送付 平成 25 年 6 月初旬予定
(全県研修会及び地区研修会一括送付)

2 地区研修会

○県西会場（古河市）

- (1)主管支部 県西支部
- (2)開催会場 古河市ユースセンター総和
- (3)開催期日 平成 25 年 12 月 8 日(日)及び
15 日(日)予定

○鹿行会場

- (1)主管支部 鹿行支部
- (2)開催会場 未定
- (3)開催期日 平成 26 年 2 月予定

広報委員会

- 広報委員長 岡野 秀一
- 広報委員 菅谷 政宏(県北支部)
- 舩井 幸子(水戸支部)
- 柏葉 光子(中央支部)
- 君和田治也(鹿行支部)
- 櫻井 孝之(県南支部)
- 又村 和子(県西支部)

編集後記

第六十六号会報発行に
当たり皆様に原稿を賜り
心から感謝申し上げます。
ご愛読いただける会報と
なるよう努力してまいり
ますので、皆様の忌憚の
ないご意見をお寄せ頂き
たいと思います。

今回の会報発行は

平成二十五年九月